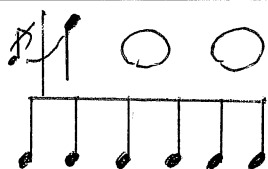


ウィンナワルツにおける微妙なリズムの隠し味 (あくまで隠し味です。度が過ぎないように)

(これをマスターすれば、誰でもウィーンフィル以上の演奏ができます!?)

「南国のバラ」と「美しく青きドナウ」から拾いましたが、すべての曲に共通です。

1 拍目と 2 拍目の間に関すること	
	2 拍目を早く打ち、その分 3 拍目との間が開く。弦楽器の場合 2 拍目の引っかけをきつめに、弓で pizz. をする感じで。この伴奏形が特に目立つ時には、2 拍目に多少アクセントをつけて目立たせる(3 拍目の音符との強弱の違いを際立たせる)。
	
	 っぼくなる→その分 2 拍目が早く来て 3 拍目との間が開く
	 っぼくなる→その分 2 拍目が早く来て 3 拍目との間が開く
	 っぼくなる→その分 2 拍目が早く来て 3 拍目との間が開く
	リズムカルな箇所では、旋律を演奏している時でも 1 拍目と 2 拍目の間が多少つまる (いわゆるウィンナワルツのリズム)
2 拍目と 3 拍目の間に関すること	
	 っぼく
	 っぼく
	 が速くなる。(その分 1 小節が短くなり結果この小節のみ poco piu mosso っぼくなる)
	 っぼく
3 拍目と 1 拍目の間に関すること	
	 っぼく
	 っぼく
	 っぼく
	 っぼく
	 っぼく
	 っぼく
	 っぼく
	 っぼく



Vn はポルタメントを使い、フラジオを使える所は使うかなりの swing を忘れないように

Tutti で 1 小節のみに出てきた場合、その小節のみ piu mosso で